

城上神社

江戸時代（1603年～1867年）の繁栄以前からこの町を見守ってきた城上神社は、大森町の精神的な拠り所と言えます。旧代官所からわずか数歩の場所にある町の東端に位置するこの神社は、1577年に、この地を領有した毛利氏が町と住民を災難から守るために今の場所に創建しました。この聖域は、大森の他の大部分とともに、1800年の大火により焼失しましたが、わずか12年後に再建されました。現在の建物は、この再建当時のものと同じ建物であり、入母屋造の特徴的な屋根をもつ印象的な二階建ての拝殿があります。拝殿の一部には、神社に寄進した武士の家紋が飾られていますが、その内装の中でもとりわけ印象的なのはおそらく鳴龍（「轟く竜」）でしょう。1818年に制作されたこの天井画は、宙を舞う龍を表現しており、拝殿の音響効果を巧みに利用しているため、真下に立って手を叩くと「鳴き声」が聞こえます。